

## I 第4学年 国語科学習指導案

### 1. 単元名 学習したことを生かして「ごんぎつね」

### 2. 指導感

- 本学級の子ども達は、これまでに「白いぼうし」「一つの花」の学習を通して、登場人物の言動をもとに人物の気持ちや人柄を読み取ったり、読み取った内容に対する自分の感想を持ったりする学習を行ってきた。その中で、指示語を読んだり、ダッシュを読んだり、場面と場面を比べて読んだりする読み方を経験している。しかし、読みの根拠となる叙述とつないで考えをまとめたり、場面と場面を関係づけて読み取ったりすることは十分ではない。

なお、読みの話し合いの中で、理由を明確に発言したり、考えの共通点や相違点を考えながら話し合ったりできる子どもは少ない。

- 本教材「ごんぎつね」は、ひとりぼっちで生活していたごんが、自分と同じひとりぼっちになった兵十に何とか自分の存在に気付いてほしいと願う一途な姿が描かれている物語である。文章は6つの場面で構成されており、語り手が小さいときに聞いた話を始めているところから始まる。そして場面を追うごとにごんの兵十への想いが募っていく展開となっている。表現の特質としては、ごんの心内語が数多くあり、それに着目してどの場面にも貫かれているごんのさびしさや兵十への募る想いを読み取らせることで、死をもってしか想いが通じなかつた切なさに迫らせることができる。

指示語や文末表現などの理解を深めながら、場面と場面を関連させて読む力を育てていくのに適した教材である。

なお、読み確かめでの話し合いやごんぎつね学習後の読書活動の中で、理由を挙げながら筋道立てて話す、話の中心に気を付けて聞き、必要があれば質問・意見する、共通点や相違点を考えながら発表を聞く「話す・聞く」の力を定着させる。また、読みのまとめや読書活動の中で、書こうとすることの中心を明確にし理由や事例を挙げて「書く」力を定着させる。

- 本単元の指導にあたっては、まず、語り手の存在に着目して、題名と冒頭を読むことで「①ごんぎつねとはどんなお話だろう。」「②語り手の心に残ったことはどんなことだろう。」という二つの読み通しの目をつける。

次に、全文を読み、予見をまとめる。その際、難語句を抽出しておき、辞書を用いて理解させる。予見の段階では、読み通しの目に対する答え、予見①と予見②の二つを書きまとめ、話し合い、予見を方向付けるとともに、学習計画を立て、中心文をとらえる。

読み確かめでは、それぞれの場面での中心文をもとに、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み取っていく。また、毎時間の最後に、読み取った内容に対する感想を述べ合う言語活動を行う。場面ごとにこの活動を繰り返すことで、さびしくてたまらないごんの人物像にせまらせる。

読みのまとめでは、読み方をまとめるとともに、ごんのさびしさやごんと兵十との関係を振り返る。そして、題名が「ごんぎつね」の意味を考えながら、語り手が伝えたかったことを書きまとめる。

その後の読書活動では、「心のつながり」をテーマに、紹介したい本のあらすじを書かせるとともに、心に残ったこととその理由を書きまとめさせる。その際、あらすじの書き方や題名の役割を想起させたり、心に残ったことをかくための視点を与えたりする。次に、同じ本を選んだ友だち同士であらすじの確認・修正や役割分担、リハーサル等、紹介の準備を行う。その際、文や語句の書き抜き、挿し絵の利用、音読などの紹介の方法を具体的に示す。最後に、選んだ本を紹介し合う。その際、心のつながりについて、自分たちとの共通点や相違点を考えながら聞くという視点を与える。

### 3. 単元の目標

- 何とかして兵十に自分の存在に気付いてほしいと願うごんの一途な姿を通して、死をもってしか想いが通じなかつた切なさを読み取ることができるようにする。
- 文末表現や指示語の働きについて理解を深めながら、人物の気持ちの変化を読む読み方や、場面と場面を関係づけて読む読み方を身に付けさせる。
- 複数の本を読み紹介しあう活動を通して、「心のつながり」についての考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

#### 4. 単元構想図

**【目標】**

- 何とかして兵十に自分の存在に気づいてほしいと願うごんの一途な姿を通して、死をもってしか想いが通じなかった切なさを読み取ることができるようになる。
- 文末表現や指示語の働きについて理解を深めながら、人物の気持ちの変化を読む読み方や、場面と場面を関係付けて読む読み方を身に付けさせる。
- 複数の本を読み、紹介しあう活動を通して、「心の通い合い」についての考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

**【言語活動例】**

- ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。
- エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

① 題名と冒頭から読み通しの目をつくる。

- 語り手が登場していることを確かめ、語り手に着目して読み通しの目をつくる。

**【読み通しの目】**

- ・ こんぎつねとは、どんなお話だろう。
- ・ 語り手であるわたしの心に残っているのはどんなことだろう。

② 全文を読み、予見をまとめ、学習計画をたてる。

- 人物、時、場所に気をつけて全文を読み、あらすじをまとめる。
- 心に残ったことをまとめる。
- 各場面ごとに、予見を確かめていく中心文を選ぶ。

**書くこと**

あらすじを書きまとめる。  
→低学年の指導事項との関連

③ 各場面ごとにごんの様子や気持ちを読み取り、ごんのひとりぼっちのさびしさについて読み確かめる。

- 似た言葉をくらべて読む。
- 文末を読む。
- 接続語を読む。
- 言葉を外して読む。
- 指示語を読む。
- 場面と場面をつないで読む。
- 呼称の変化を読む。

**話すこと・聞くこと**

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

④ 読みのまとめと読み方のまとめをする。

- 題名にこめられた意味を話し合う。
- 読み手として心に残ったことを、読み取ったこととつないで書きまとめる。
- 「こんぎつね」で学習した読み方を読み取った内容とつないで振り返る。

**書くこと**

ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

⑤ 心の通い合いがえがかれている本を読み、友達に紹介する。

- 心の通い合いがかかれている本を選び、あらすじ、こんぎつねと比べての共通点・相違点、心に残ったことの三点をまとめる。
- 同じ本を選んだ友達と話し合い、紹介する方法を決める。
- 選んだ本が同じ友達とグループになって、本を紹介しあう。

5. 学習計画（全20時間）

時	学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点（※は他の領域との内容の関連）
1 / 20	<p>1. 「学習したことを生かして」という単元名から単元の構えを持つ。</p> <p>2. 本時時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>題名と冒頭を読み、読み通しの目をつくろう。</p> </div> <p>3. 題名「ごんぎつね」から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんというきつねが出てくる話</li> <li>・どんなきつねで、どんなことをするのか。</li> </ul> <p>4. 題名とつないで、冒頭部分を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手が出てきている。</li> <li>・「わたし」は、小さいときに聞いた話を大人になってからも伝えている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ ごんぎつねとはどんなお話だろう。</p> <p>○ 語り手であるわたしの心に残っているのはどんなことだろう。</p> </div>	<p>○ これまでの学習で習得した読み方を生かして本単元を読んでいくという読みの構えを持たせる。</p> <p>○ スイミーを想起し、人物が題名になっている意味を考える。</p> <p>○ 題名で出た疑問とつないで冒頭を音読させる。</p> <p>○ 語り手として「わたし」が登場していることを確認する。</p> <p>○ 「わたし」が「小さいとき」に聞いて、大人になった今でも覚えているという設定に気付かせる。</p>
2 . 3 . 4 / 20	<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>全文を読み、予見をまとめよう。</p> </div> <p>2. 全文を読み、難語句の意味を辞書で調べ、教科書の注釈や補説で知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全文を読む。</li> <li>(2) 難語句の意味を調べる。</li> </ul> <p>3. ごんの言動に着目して、あらすじをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 場面を確認する。</li> <li>(2) あらすじを書きまとめる。</li> <li>(3) あらすじについて話し合う。</li> </ul> <p>4. 予見を書きまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わたしはごんぎつねのお話で、ごんのひとりぼっちのさびしさが今も忘れられないほど心に残っている。</p> </div>	<p>○ 一行空きと挿し絵を手がかりに、6つの場面に分けられることに気付かせる。</p> <p>○ あらすじをまとめる際、挿し絵やごんの言動、時や場所を表す言葉に着目させ、字数を制限して書かせる。</p>
5 / 20	<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予見について話し合い、読み確かめていく計画を立てよう。</p> </div> <p>2. 書きまとめた予見を話し合う。</p> <p>3. 予見や予見の根拠となった叙述の重なりやずれをもとに、読み確かめていく計画を立てる。</p> <p>— 読み確かめること —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとりぼっちでいたずらばかりするごんの気持ち</li> <li>・いたずらを後悔するごんの気持ち</li> <li>・自分と兵十の姿を重ね、つぐないを続けるごんの気持ち</li> </ul>	<p>○ 予見と根拠となった叙述を分析しておく。</p> <p>○ それぞれの予見と、根拠となった叙述を板書に位置づけ、重なりや違いをもとに中心文と読み確かめていく視点を話し合うようにする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>つぐないを神様のしわざと思われたごんの気持ち</li> <li>うたれたときのごんの気持ち</li> </ul>	
6	1. 本時のめあてを確認する。	
7	いたずらばかりするごんの気持ちを読み確かめよう。	
20	<p>2. 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3. 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) なぜ夜でも昼でもいたずらばかりするのか話し合う。</p> <p>(2) いたずらの内容から、ごんの気持ちを読み確かめる。 ○いも、菜種がら、とんがらしのいたずらから、自分に気付いてほしい気持ちを読み確かめる。 ○うなぎのいたずらから、兵十にかまって欲しい気持ちを読み確かめる。</p> <p>4. 本時に学習した読み方と読み取ったことをまとめる。 (1) 読み方のまとめをする。 (2) 今日の学習で読み確かめたことと、この場面のごんをどう思ったかを書きまとめる。</p>	<p>※ 話形をカード化したものを提示して発表する際に意識させる。</p> <p>※ 発表の際に問い返しを行い、共通点や相違点を意識して聞くことができるようにする。</p> <p>○ 「夜でも昼でも」とごんの生活の様子とをつなぎ、誰かに気付いてもらいたくていたずらをくり返すごんのひとりぼっちのさびしさを考えさせる。</p> <p>○ 「ほり散らしたり」「むしり取って」と「ほったり」「むしったり」と比べさせ、いたずらの内容や何度もいたずらをする理由を、ごんのひとりぼっちのさびしさとつないで考えさせる。</p> <p>○ 「ぬすつとぎつねめ。」の文末表現から、兵十のごんへの見方を読み取らせる。</p> <p>○ 読み確かめたことを視覚的に分かりやすく板書したり代表児に発表させたりして確認する。</p> <p>○ 自分の経験と読み確かめたごんの姿を比べることでごんのひとりぼっちのさびしさについて考えさせる。</p>
	<p>今日の場面のごんは、ひとりぼっちの寂しい気持ちを紛らわし、なんとかして村人たちと関わりたい、兵十とも友だちになりたいという思いからいたずらを繰り返していた。</p> <p>わたしは、友だちにいたずらをしたことがあるけど、ごんとは違ってわたしには家族や友だちがいるからひとりぼっちじゃない。ごんは友だちもいなくて本当に寂しかったんだと思う。</p>	
8	1. 本時のめあてを確認する	
9	いたずらを後かいするごんの気持ちを読み確かめよう。	
20	<p>2. 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3. 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「そのぼん」「あんないたずら」について話し合う。</p> <p>(2) うなぎのいたずらだけを後悔しているわけを、ごんの思いこみから考える。</p> <p>4. 本時に学習した読み方と読み取ったこ</p>	<p>○ 指示語「その」から、うなぎのいたずらを後悔したのは兵十のおっかあの葬式の日であることを読み取らせる。</p> <p>○ 「あんないたずら」と1の場面のいたずらをつないで、うなぎのいたずらを後悔していることを読み取らせる。</p> <p>○ 「～ちがない」「～だろう。」という文末表現とつないで、ごんがうなぎのいたずらのせいでおっかあを死なせてしまったと思いこみんでいることに気付かせる。</p> <p>○ 読み確かめたことを視覚的に分かりやすく板書し</p>

	<p>とをまとめる。</p> <p>(1) 読み方をまとめる。</p> <p>(2) 今日の学習で読み確かめたことと、この場面のごんをどう思ったかを書きまとめる。</p>	<p>たり代表児に発表させたりして確認する。</p> <p>○ 自分の経験と読み確かめたごんの姿を比べることで後悔するごんについて考えさせる。</p>
<p>ごんは、うなぎのいたずらをしたせいでおっかあが死んでしまったと思いこみ、兵十をひとりぼっちにしてしまったのは自分のせいだと強く後悔している。</p> <p>わたしも友だちにいたずらをして後悔したことがあるけど、そこまで強く後悔したことはない。きっとごんは相談する相手もいなくて、ひとりぼっちだったから思いこんで後悔したんだと思います。</p>		
10	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p>	
11	<p>つぐないをするごんの気持ちを読み確かめよう。</p>	
20	<p>2. 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3. 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「おれと同じ」について話し合う。</p> <p>(2) つぐないを繰り返すごんの気持ちを考える。</p> <p>4. 本時に学習した読み方と読み取ったことをまとめる。</p> <p>(1) 読み方をまとめる。</p> <p>(2) 今日の学習で読み確かめたことと、この場面のごんをどう思ったかを書きまとめる。</p>	<p>○ 「おれと同じ、」の読点から兵十のことを自分と同じ境遇だと思いこんでいることを読み取らせる。</p> <p>○ 「ひとりぼっちの兵十か。」の文末表現「か」から、自分がひとりぼっちにさせたことを確信し、後悔していることを読み取らせる。</p> <p>○ 「次の日も、その次の日も～」から一生懸命つぐないをくりかえすごんの気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ ごんのつぐないが「いわし」「くり」「松たけ」と変わっていることから、ごんの兵十を思う気持ちに変化していることに気付かせる。</p> <p>○ 読み確かめたことを視覚的に分かりやすく板書したり代表児に発表させたりして確認する。</p> <p>○ 自分の経験と読み確かめたごんの姿を比べることでつぐないを繰り返すごんについて考えさせる。</p>
<p>ごんは、「おれと同じ」と言って、おっかあが死んだのは自分のせいだと確信した。そして、ひとりぼっちのさびしさを知っているからと自分と兵十を重ね合わせ、いたずらを強く後悔して、つぐないを繰り返した。</p> <p>わたしは、友だちにいたずらをしてごめんねと言ったことはあるけど、ごんのようにくり返してつぐないをしたことはない。きっと、ごんはひとりぼっちの気持ちをよく知っているから、兵十につぐないをくり返したんだと思う。</p>		
12	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p>	
13	<p>つぐないを神様の仕業だと思われ、がっかりするごんの気持ちを読み確かめよう。</p>	
20	<p>2. 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3. 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) 「へえ、こいつは、つまらないな。」</p>	<p>○ 「こいつ」と「うん。」をつないで、自分の</p>

	<p>について話し合い、兵十と加助の後をつけていくごんの様子を読み確かめる。</p> <p>(2) 「おれ」の繰り返しや、「引き合わないなあ。」の文末表現に着目してごんの気持ちを話し合う。</p> <p>4. 本時で学んだ読み方と読み取ったことをまとめる。</p> <p>(1) 読み方をまとめる。</p> <p>(2) 今日の学習で読み確かめたことと、この場面のごんをどう思ったかを書きまとめる。</p>	<p>つぐないに兵十が気付いていないことを「つまらない」と思っている事を読み取らせる。</p> <p>○ 「おれ」の繰り返しから、自分に気付いてもらえなかったことに落胆しているごんの気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ 「引き合わないなあ。」から自分がこれほどつぐないをしているのに兵十に気付いてもらえずがっかりしている事を読み取らせる。</p> <p>○ 読み確かめたことを視覚的に分かりやすく板書したり代表児に発表させたりして確認する。</p> <p>○ 自分の経験と読み確かめたごんの姿を比べることでがっかりするごんについて考えさせる。</p>
	<p>うなぎのつぐないで、なんとか兵十に自分のことを分かってほしいと思ってつぐないを繰り返したが、兵十に気づいてもらえなかったことにごんはがっかりしている。</p> <p>わたしは、友だちのプリントを拾ってあげたのに気づいてもらえずがっかりしたことがあるけど、ごんは兵十につぐないを繰り返したのに気付いてもらえなかったのでもって残念に思っていると思う。</p>	
14	1. 本時のめあてを確認する。	
15	うたれたときのごんの気持ちを読み確かめよう。	
20	<p>2. 中心文に書き込みをし、自分の考えを書きまとめる。</p> <p>3. 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>(1) なぜまたくりを持って行くのか話し合う。</p> <p>(2) ぐったりと目をつぶったまもうなずいたごんの気持ちについて話し合う。</p> <p>4. 本時で学んだ読み方と読み取ったことをまとめる。</p> <p>(1) 読み方をまとめる。</p> <p>(2) 今日の学習で読み確かめたことと、この場面のごんをどう思ったかを書きまとめる。</p>	<p>○ 兵十に気付いてもらえずがっかりしたけど、それでもつぐないをくり返すごんの気持ちの強さに気付かせる。</p> <p>○ 「ごんぎつねめ」と「ごん」を比べ、ごんに対する兵十の呼称の変化から兵十のごんに対する見方の変化を読み取る。</p> <p>○ ごんは何にうなずいたのか、どうしてうなずいたのかをこれまでのごんの気持ちとつないで考えさせる。</p> <p>○ 読み確かめたことを視覚的に分かりやすく板書したり代表児に発表させたりして確認する。</p> <p>○ 自分の経験と読み確かめたごんの姿を比べることでひとりぼっちのごんさびしさについて考えさせる。</p>
16	1. 「ごんぎつね」の学習をふり返り、題名について考える。	○ 各場面で読み確かめたことと題名をつないで題名に込められた意味を考えさせる。
20	2. 心に残ったことを語り手の立場になって	○ 各場面で書きまとめたごんに対する思いをも

	<p>書きまとめる。</p> <p>3. 書きまとめたものを発表する。</p> <p>4. 読み方のまとめをする。</p> <p>5. 心のつながりが描かれている本を紹介する。</p>	<p>とに、自分が語り継いでいく立場になって、どんなことを伝えていくか書きまとめさせる。</p> <p>○ ごんのひとりぼっちのさびしさや、ごんと兵十が分かり合えなかったことから心のつながりの難しさが描かれているということをまとめる。</p> <p>○ 掲示物や学習プリントをもとに、本単元で活用した読み方を振り返らせる。</p> <p>○ 朝読書の時間を使って紹介した本を読ませておく。</p>
<p>17 / 20</p>	<p>1. 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="215 544 1420 656" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ごんぎつね」のように「心のつながり」がえがかれている本を読み、友達に紹介するじゅんぴをしよう。</p> </div> <p>2. 選んだ本を読み、あらすじを書く。 ・主人公の言動をもとに人柄を考える。</p> <p>3. ごんぎつねと比べてにているところ・ちがうところを書きまとめる。</p> <p>4. 選んだ本のどこが心に残ったか書きまとめる。</p>	<p>○ 登場人物の言動や挿し絵、時や場所を表す言葉に着目させ、あらすじを書かせる。</p> <p>○ カードにごんぎつねと似ているところ・違うところを書かせておく。</p> <p>※ 書こうとすることの中心を明確にし、理由を挙げて書かせる。</p>
<p>18 . 19 本時 / 20</p>	<p>1. 本時のめあての確認をする。</p> <div data-bbox="215 992 1420 1059" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分と同じ本を選んだ友達と、紹介のじゅんぴをしよう。</p> </div> <p>2. 紹介のしたい事柄をグループで伝え合う。 (1) 紹介したい話のあらすじ (2) ごんぎつねとの比較 (3) 話の中で心に残ったところ</p> <p>3. 紹介する方法を話し合う。 ・あらすじを挿し絵で紹介 ・印象的な場面を抜粋し音読 ・好きな文や言葉を引用して感想を言う。</p> <p>4. グループで紹介する方法を決定する。</p> <p>5. 本時の学習をまとめる。</p>	<p>○ 自分と同じ本を選んだ友だちにそれぞれの書いたあらすじを紹介し、付加したり修正したりしてグループであらすじを一つにまとめさせる。</p> <p>○ 前時書いたカードを操作し、ごんぎつねと比べて似ているところ・ちがうところをグループで紹介させ、それぞれの共通点や相違点を考えさせる。</p> <p>○ それぞれの共通点・相違点をもとに、どんな心のつながりが描かれているか、紹介する内容を考えさせる。</p> <p>○ 音読や好きな文・言葉の引用等、どんな方法で紹介するかを考えさせる。</p> <p>○ 本の紹介の役割分担をさせる。</p>
<p>20 / 20</p>	<p>1. 本時のめあての確認をする。</p> <div data-bbox="215 1619 1420 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ごんぎつね」のように「心のつながり」がえがかれている本を友達に紹介しよう。</p> </div> <p>2. グループごとに本の紹介をする。</p> <p>3. 紹介した本について、分かったことを話し合う。</p> <p>4. 「心のつながり」が描かれている本をこれからも読んでみたいという意欲を持つ。</p>	<p>○ それぞれのグループが紹介する本のどんな心の通い合いが心に残ったかという視点で発表を聞くよう意識付ける。</p> <p>※ それぞれが紹介した本の共通点や相違点を意識させるために、問い返しを行う。</p> <p>○ 本を読み広げるおもしろさに気付いたことをまとめ、人物相互の心のつながりが描かれている本を紹介し、読書への意識を持たせる。</p>

## 6. 本時の目標

- グループの中で、自分たちが紹介しようとする本のあらすじを確かめたり、心に残った場面やそのわけを交流し合ったりすることで、一人ひとりの感じ方の違いや共通点に気付くことができる。
- 自分が選んだ本をどのように発表するのかを考えたり、登場人物の心のつながりのあり方について「ごんぎつね」で読み取ったことと比べたりすることによって、心のつながりについての考え方を広げたり深めたりすることができる。

## 7. 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、「ごんぎつね」の話で、兵十に気付いてもらいたいと願いながらも死を持ってしか分かり合うことができなかつたごんのさびしさを読み取り、その後、「ごんぎつね」のように心のつながりについて書かれた本を選び、そのあらすじや心に残った場面やそのわけを学習プリントに書きまとめてきている。そして、選んだ本ごとにグループを作り、学習プリントをもとに、あらすじを確認し合い、それぞれのとらえたあらすじについて場面を整理したり中心を考えたりしながらまとめてきた。

本時は、同じ本を選んだ子どもたちでグループを作り、ごんぎつねと比べて似ているところ・違うところや心に残ったことを交流し合い、学級全体に発表するために計画を立てたり準備をしたりする時間である。

まず、ごんぎつねと比べて似ているところ・ちがうところについて、個人でカードに書かせたものをもとに話し合いを行う。同じ作品を読んで、友だちの感じたことと友だちの感じたことを比べることで、一人ひとりの感じ方の違いがあることに気づいたり、似ている点について共感したりすることができる。登場人物の心のつながりという点を中心に考えていくことよって、「ごんぎつね」で学習した心のつながりと比べながら、その考え方を深め考えていく。

そして、それぞれの心に残った場面とそのわけを出し合う。友だちの心に残ったところや自分の心に残ったところを比べ、場面や感動したわけを整理し、自分の考えを付加修正していく。

その後、自分たちが選んだ本について、あらすじ、心に残ったところやそのわけなどについて、他の本を選んだ友だちに紹介するには、どんな方法が考えられるのかを学級全体で話し合う。挿し絵を提示しながらあらすじを紹介する、好きな場面や言葉を引用して感想を言う、特に印象的な場面を抜き出し音読する、などの方法に気づかせたい。また、心のつながりについて「ごんぎつね」と比べながら話すことの大切さについて考えていかせたい。

そして、グループでの話し合いに戻り、学級全体への発表に向け、あらすじを発表する子ども、一部の場面を音読し紹介する子ども、自分の心に残ったことを発表する子どもなど、分担を決め、練習をする。聞いている子どもたちにその作品の中の登場人物の心のつながりを分かりやすく紹介するために、心に残った場面やその理由について筋道を立てて話すこと、効果的に絵本そのものを利用したりすること、丁寧な言葉遣いではっきりと話すことに留意させ、次時の学級全体への発表につなげていく。

次時の学級全体の発表においては、それぞれの本の心のつながりを比べ、心のつながりについての考え方を広げたり深めたりしながら、心を通わせ合うことの良さを感じ取らせていきたい。

## 8. 板書計画

学習したことを生かして ごんぎつね 自分と同じ本を選んだ友だちと紹介する じゅんぴをしよう。	今日の流れ 1. グループ ・くらべる ・心に残ったこと 2. 全体 紹介の方法 2. グループ 紹介の方法を 決める	グループの話し合い 一、ごんぎつねとくらべる ・ いてるところ ・ ちがうところ 二、心に残ったところ	紹介の方法 ・ さし絵を見せる。 ・ 言葉や場面を音読をする。 ・ ペーパーサート
---	---	---	--

9 . 本時の展開 ( 1 9 / 2 0 )

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点(※は他の領域の内容との関連)
<p>1. 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて ————— 自分と同じ本を選んだ友だちに紹介する じゅんぴをしよう。</p> </div> <p>2. 「けんかのきもち」「島ひきおに」「どんなにきみがすきだかあててごらん」「ともだちや」「おにたのぼうし」「にじいろのさかな」の紹介したい事柄をそれぞれのグループ内で交流し合う。</p> <p>(1) ごんぎつねとの比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんぎつねと似ているところ</li> <li>・ごんぎつねと違うところ</li> </ul> <p>(2) 話の中で心に残ったところ</p> <p>3. 紹介する方法を話し合う。</p> <p>○ 方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらすじやごんとの違いをさし絵で紹介</li> <li>・印象的な場面を抜粋して音読</li> <li>・好きな文や言葉を引用して感想を言う。</li> </ul> <p>4. グループで紹介方法を決定する。</p> <p>5. 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) グループで決まったことをもとに今日の学習を振り返る。</p> <p>(2) 次時の予告をする。</p>	<p>○ 学級全体で発表するために、計画を立てたり、準備をしたりする時間であることを確認させる。</p> <p>○ 自分と同じ本を選んだ友だちに、前時までに書いたごんぎつねと似ているところ・ちがうところをカードをもとに紹介させ、それらの共通点や相違点をもとに、紹介したい内容を考えさせる。</p> <p>※ カード操作をもとに互いの考えの共通点や相違点を考え、司会者の進行に沿って話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 心に残ったところを紹介させ、一人一人の違いに気付かせる。</p> <p>○ 全体でどんな方法で紹介すると、相手にうまく紹介することができるか考えさせる。</p> <p>○ 今までの経験を想起させ、分かりやすい方法を提示する。</p> <p>○ 前もって学習プリントを分析し、グループに応じた支援をする。</p> <p>○ どのように紹介するかグループで話し合い、進み方に応じて役割分担するよう助言する。</p> <p>○ 次時の本の紹介では、それぞれの本を比べ心のつながりについての考え方を広げたり深めたりしていくことを確認する。</p>